

## 平成 28 年度～令和 6 年度点検評価結果 総括資料

能勢町教育基本方針に基づき実施してきた過去 10 年間の教育施策について、重点課題別に主要指標の推移を分析し、成果として評価できる点と、次期大綱の策定に向けた課題点を明確にすることで、基本理念および重点施策の検討材料として整理を行いました。

### 重点課題別の評価できる項目と課題項目

過去 10 年間の指標の年次推移から、各重点課題における評価できる成果と、継続的な努力が必要な課題項目を抽出しました。

#### 1. 確かな学力の定着と学びの深化

分類	評価できる項目（成果）	課題項目（次期大綱への方向性）
英語教育	<b>【CEFR A1 レベル達成率の大幅向上】</b> GTEC を活用した英語能力の測定において、中学卒業段階での CEFR A1 レベル達成率が中期的に向上傾向にあります（例：令和 4 年度 57.14%→令和 6 年度 79.40%）。これは、英語能力における 4 技能をバランスよく伸ばしていくための、能勢町独自の英語教育推進事業が定着し、成果を発揮していることを示します。	<b>【安定的な高水準の維持と R2 ピーク値の検証】</b> 年次推移には変動も見られるため（特に令和 2 年度の突出した高水準）、全ての生徒の学習到達度を安定して高い水準で維持するための指導体制の確立が必要です。また、英語教育だけでなく、学力向上全般における取り組みの「選択と集中」の検証が必要です。
学力全体	<b>【地域学校連携・一貫教育の推進】</b> 能勢地域学校連携・一貫教育の推進により、小・中・高の連携が強化され、12 年間を見通した系統的な教育課程の編成が進んだことは評価されます。	<b>【データと子どもの実態を踏まえた学習改善サイクルの定着】</b> 各種調査結果や子どもの実態を、組織的な授業改善や生徒の個別支援に活かす PDCA サイクルをより強固にする必要があります。子どもの将来像を含めた系統的な学力向上の取り組みを強化する必要があります。

#### 2. 豊かな心と健やかな体の育成

分類	評価できる項目（成果）	課題項目（次期大綱への方向性）
心の教育	<b>【いじめ・不登校対策の継続的实施】</b> いじめ認知件数や不登校児童生徒数について、早期対応・未然防止の意識を常に高く持ち、きめ細かな対応と関係機関との連携を継続してきたことは評価されます。	<b>【新たな課題への対応強化】</b> ヤングケアラーや多様な性のあり方など、現代的な課題に対する教職員の知識・理解を深め、児童生徒の心の居場所づくりをさらに充実させる必要があります。

分類	評価できる項目（成果）	課題項目（次期大綱への方向性）
体力	<b>【体力向上のための継続的な取り組み】</b> 体力・運動能力調査について、全国・大阪府平均を意識した取り組みを継続しています。学校だけでなく、 <b>地域や外部機関（体育大学など）との連携</b> によるプログラム導入の姿勢は評価されます。	<b>【運動習慣の定着と地域での機会提供】</b> 体力向上の取り組みを、単なる測定対策に留めず、 <b>生涯にわたって運動に親しむ習慣</b> を子どもたちに定着させるための学校・社会体育を通じた連携を強化する必要があります。

#### 6・7・8. 生涯学習・社会教育、芸術文化、スポーツの推進

分類	評価できる項目（成果）	課題項目（次期大綱への方向性）
生涯学習・文化	<b>【図書室利用の活性化と定着】</b> 図書室貸出冊数は、コロナ禍による一時的な落ち込み（令和 2・3 年度）から大きく回復し、 <b>10 年間で最も高い水準（令和 5・6 年度）</b> で推移しています。これは、読書活動や生涯学習の推進が町民に定着し、成果を上げていることを示します。	<b>【高齢化・多様化に対応した学びの場の創出】</b> 識字教室など、特定の生涯学習プログラムの参加者数は年次で変動が見られます。 <b>高齢化の進行や多様な学習ニーズ</b> に応じた、より参加しやすく、継続しやすい学習機会の提供モデルを再構築する必要があります。
コミュニティ	<b>【成人式出席率の安定的な維持】</b> 成人式（はたちの集い）の出席率は、年度による変動はあれど <b>80%台半ばで安定的に推移</b> しており、町として節目を祝う文化が定着し、新成人からの一定の評価を得ていることがうかがえます。	<b>【次世代を担う若者の参画促進】</b> 成人式以外の場も含め、若者が町の教育や文化、まちづくりに主体的に <b>関わる機会</b> を創出し、その活動を支援する仕組みを強化する必要があります。

#### 4・5. 多様な主体との協働、教育環境の整備と運営

分類	評価できる項目（成果）	課題項目（次期大綱への方向性）
連携・協働	<b>【コミュニティ・スクールの導入と協働体制の構築】</b> 学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の導入、および地域学校協働活動の推進により、 <b>多様な主体が学校運営に参画する基盤</b> が築かれました。	<b>【教員の負担軽減と地域連携の質の向上】</b> 地域との連携強化は不可欠ですが、現場教職員の負担増大を招かないよう、 <b>学校運営協議会や地域学校協働本部の機能強化</b> と、それによる教職員の業務改善を両立させる仕組みづくりが必要です。
環境整備	<b>【ICT 環境の一層の整備】</b> GIGA スクール構想に基づき、児童生徒一人一台端末の整備や高速通信環境の整備が進み、 <b>教育のデジタル化の基盤</b> が整いました。	<b>【設備の持続可能な維持管理と活用】</b> 整備された ICT 環境や学校施設の老朽化対策、給食調理場の衛生管理など、「安全・安心」を担保するための <b>教育環境の持続可能な維持管理</b> を計画的に行う必要があります。

## 総括まとめ（次期大綱への提言）

### 1. 評価できる項目（成果）

- ・基盤の確立
- ・英語教育の成果
- ・図書室利用の定着
- ・地域連携の基盤整備
- ・ICT 環境の整備

### 2. 課題項目（注力すべき分野）

- ・「確かな学力の定着」と「社会を生き抜く力」のバランスの追求
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両立させる授業改善
- ・「時代に即した学校運営」の検討と「教職員の働き方改革」の実現
- ・「不登校・いじめ」など、子どもの心身の健康に関わる複合的な課題への対応強化
- ・「生涯にわたる学びの機会」の創出と、「地域文化・自然」を活かした教育の推進

## 総括として

過去 10 年間で、能勢町独自の特色ある英語教育の成果、図書室利用の活性化、そしてコミュニティ・スクールを核とした地域連携の基盤が確立されました。

次期大綱においては、これらの「定着した成果」を土台としつつ、「**個別最適な学びの実現**」や「**教職員の働き方改革**」といった現代的な教育課題に対し、「地域との協働」を最大限に活かし、持続可能な教育体制を構築することが求められます。